

泌 尿 器 科 紀 要

第 12 巻 第 4 号

昭和 41 年 4 月

随 想

アメリカ泌尿器科学始めの頃

慶応義塾大学助教授 東 福 寺 英 之

戦後20年の間、随分吾々は米国の泌尿器科学となじみになったものである。吾々のなじみになった米国泌尿器科の初期については意外と知られていない面白い話があるようである。

米国泌尿器科学は多くの人々が知っているように外科の一分科として発展してきた。然し欧州で皮膚科性病科の一分科として泌尿器科を勉強して来た人々は意外にこの道に寄与するところが少なかった。これが米国で始めて独立した一診療科目となったのは1887年で、New York の Bellevue Hospital Medical College で、初代の主任教授は van Buren であった。

米国における最初の泌尿器疾患のモノグラフは1851年 Philadelphia で Gross が書いた“A Practical Treatise on the Diseases, Injuries and Malformations of the Urinary Bladder, Prostate Gland and the Urethra”で、英語で書かれたものでは世界第3番目である。

これら泌尿器疾患に興味をもっていた外科医らは1886年 American Association of Genito-Urinary Surgeons を結成し北西部の所謂 New England 地方及び Mid West (Chicago 辺り) が中心となり E. L. Keyes らが初代会長に推された。然し今日の American Urological Association (AUA) は若干異った結成経過をたどったようである。1800年の終りから1900年にかけて New York の“Frei Robber”と言う酒場があり、いつとはなく Ramon Guitéras らが中心となって、そこの excellent wine, both red and white をかたむけながら一日の診療の疲れを癒し、何となく科学的な或いは社会学的な意見の交換をしたいものが自由に集まり始めた。略々2年間この様な状態で、その名も New York Genito-Urinary Society で発足した。1902年の2月22日即ちワシントン初代大統領の誕生日を記念して、その名を AUA と改め、どんな泌尿器科医であろうと、たとえ大学や病院に関係があろうと関係なく good and true であれば皆会員として歓迎され、互選によって President に Guitéras, Secretary として Valentine が推された。そして同年 Saratoga Springs, 1903年 New Orleans, 1904年 Atlantic City と総会が開かれ、1905年第4回総会は大陸を横断して太平洋岸 Oregon 州の Portland で開かれたという発展ぶりであった。

この時代の中心はなんと言っても New York など大西洋沿岸の都市であったが、各地にも興味ある発展経過が見られる。Boston 地方は何んと言っても1846年に設立された Massachusetts General Hospital と Harvard Medical School が中心で、H. J. Bigelow とその弟子 Cabot, Watson らが基礎を作っている。Philadelphia 地方は米国における最初の病院 Pennsylvania Hospital (1751年開院ではあるが Philadelphia General Hospital in Blockley といづれが先に開院したかに未だ問題があると言う) と最初の医学校 Pennsylvania University, School of Medicine (1765年、開設者 Benjamin Franklin) のある所で、米国泌尿器科学の父 Philip Syng Physick (外科医) が居り1765年5月27日 Pennsylvania Hospital で Thomas Bond が米国で記録に残っている最初の碎石術を行なっている。初代大統領ワシントンの主治医でもあり、又 Benjamin Franklin の主治医でもあった Jones は膀胱結石性尿閉に悩んでいた Franklin が poor operative risk の患者と宣告

し手術を拒否した。このため Franklin は自分用として金属コイルに羊の腸を覆せたカテーテルを作製し自分で導尿していたと言う秘話をひそめている。Baltimore 地方では今日泌尿器科のメッカとも言われる Johns Hopkins Hospital が1889年に開かれ泌尿器科は当初2つの流れを見ることが出来る。開院時泌尿器科は Brown が主催し、後日米国で Brown Burger (日本では Burger Jahr 型) 膀胱鏡の基礎を作り、1893年米国で始めて男子尿管カテリスマスに成功し、Brown が1895年死去した後 H. H. Young が二代目となっている。一方婦人科初代主任 H. H. Kelly は Leipzig の M. Säger から尿管を陰診で触診することが出来ることを知り、Praque の Pawlik から女子の尿管カテリスマスの手技を学んで結核性の尿管肥大を触診し又同時に尿管に狭窄のあることを証明している。この地方では Hunner が1914年婦人膀胱における特有の潰瘍を記載したり、それ以前から (1907年頃) focal infection の概念を導入している。

西部の泌尿器科医には西部劇を連想させるものがある。G. Chismore (1840~1906) は歯科医となった後殆んど独学で医学を勉強した後太平洋岸の陸軍部隊の軍医としてアリゾナ、ネバダ、ワシントン州を転戦し、アラスカ駐留中はインディアンの酋長の娘と結婚した。後日サンフランシスコで開業しようとしたが医師の免許がないため Pacific 医大 (後の Stanford 大学) に学び免許証をとった変り種である。その後泌尿器科疾患に興味をもち、太平洋岸で最も有名な膀胱結石碎石術者として知られ、この地方で作られた最初の碎石器は彼が自分の父親の石を砕くために作ったものである。最も西部劇的な泌尿器科医は G. E. Goodfellow であろう。1855年カリフォルニア生れの彼は Cleveland の Wooster 大学で医学を勉強した後アリゾナ州 Tombstone で開業し、テレビでも有名なアープ警部が1882年負傷したときに治療に当り、1886年にはアパッチ族の大酋長 Geronimo が San Carlos のインディアン保護地から抜け出して暴れ回り Skelton 溪谷で捕まる迄の追跡に加わったと言われている。1887年のメキシコ大地震には救助隊として活躍、メキシコ大統領 Diaz が駿馬と勲章を授けたと言われ、そのときの写真では鞍に銃をさし腰にピストルをぶらさげ八字ひげをつけている。1890年9月には Perineal prostatectomy を行ない、1898年7月米西戦争の立役となっている。これはスペイン軍の司令官 Toral 将軍を降服するように説得し、これによってこの戦争を終結に導いたと伝えられている。

Prostatectomy は米国でははなやかな舞台で Perineal 法は前述の Goodfellow の他、1890年に Wishard (Indianapolis) もその第1例を報告している。この頃は前立腺を会陰迄如何にして引き下げるかが問題であったのが、Syms は風船の一種を経尿道的に膀胱迄挿入、ふくらまして引っぱって前立腺を下降させることに成功しているが、途中で破損したり理想的でないものであり、Young は現在知られている retractor を発明して、この方法が一般化し Young の名が冠されるようになった。風船と言えば Foley bag catheter は極めてなじみ深いものになったが、当初うまい工夫をしたものだとして Foley には驚いたが、意外とゴムカテーテルの草分けである Leroy d'Etiolles (1836) の頃フランスでは既に Reybard (1858) が Sonde á fixation automatique という風変りなカテーテルを作り、これが殆んど Foley カテーテルと同型であり、むしろ1858年時代のフランス人に感心した次第である。

最後に Freyer's Prostatectomy の裏話は1900年バリーで開かれた国際学会で Fuller と Guitéras の名で Fuller が "The Present Status of the Treatment of Prostatic Hypertrophy in the United States" と題して恥骨上前立腺剔除術を詳述していたのを Freyer が追試し London で講演又は British Medical Journal (1902) に発表して有名となったのであって、創始は Fuller 等にある Freyer ではないと言うことである。

以上出典は AUA 編 The History of Urology, 1933, Williams & Wilkins, Baltimore である。為念。